

⑦ 旧国立駅舎の再築とその利活用 (1)

令和2（2020）年4月6日に国立のシンボルである旧国立駅舎がオープンしました。市の情報発信、観光案内と共に様々なイベントが開催されております。

- 旧国立駅舎は大正15（1926）年の創建当時の姿に文化財として再築しました。
- 再築用地は約648㎡の土地です。そのうち、約138㎡はもともと市が所有していた土地で、残り約510㎡は、JR東日本のご協力により、平成29（2017）年2月に取得した土地です。
- 再築位置は、駅周辺の歩行者動線の検討やJR東日本との協議の結果、元の位置から西方向に約3m、南方向に約5m移動した位置とし、駅利用者の歩行者動線を阻害しない場所としています。



■ キャッチフレーズ

三角屋根で“まちあわせ”

元々の駅舎としての機能の一つに「待ち合わせ」があります。これに「まち全体をつなぐハブ機能」や「まちの情報発信機能」といった、くにたちのまちと出会う「街あわせ」という意味を込めました。

■ 活用コンセプト

市内外の人々が集う交流拠点

さまざまな出会いが生まれる「まちのラウンジ」

市内情報発信・回遊性の向上

まちの魅力が集まり広がる「くにたちと出会う玄関口」

文化の発信

文教都市にふさわしい「歴史・文化・芸術の発信拠点」



※「旧国立駅舎活用方針報告書（平成30（2018）年3月）」より

⑦ 旧国立駅舎の再築とその利活用 (2)

数字・データで見る旧国立駅舎 2021年度 <年間利活用 成果>



旧国立駅舎 再築復元から2年間で成し遂げたこと (数字は直近1年間実績より)

- 賑わいを生む公共施設の創出**
かつての旅客駅から
年間 **41万人** が来訪する
賑わいを生む
市内公共施設の創出
- まちの魅力発信拠点の体現**
かつての旅客駅から
“まちの魅力発信拠点 (スペースメディア)”として
年間 **100** 件のイベント利用、
270 件の館内プロモーション、
1,600 回のSNS情報発信展開
- まちの回遊を促す拠点展開**
かつての旅客駅から
“まちの回遊ガイド拠点”として
年間 **700** 件超のまち案内、
650 件の市内イベント情報を
館内・外サイネージで掲出展開
- 国立駅前まちのラウンジ運営**
かつての旅客駅から
年間 **355** 日、
夜 **10** 時まで開いてる
国立駅前の“まちのラウンジ”運営
- まちの歴史展示 | 使える文化財**
かつての旅客駅から
“まちのユニークな歴史の
プレゼンテーション施設”として
年間 **41万人** が訪れる
“使える文化財”の誕生
- 文化芸術サテライトセンター**
かつての旅客駅から
“文化芸術の発信拠点”として
年間 **310** 日間のピアノ運用、
述べ **2,100** 人の参加実績

旧国立駅舎は、空間をメディアとして、“二刀流”の「スペース利活用」を展開中

